

## 2. 関連文化財群の保存活用

### 「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」の保存活用

#### (1) ストーリーと構成する文化財

##### ① ストーリー

「基本構想」において明示されている関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」のストーリーは以下のとおり。

##### ○田崎草雲

田崎草雲は、文化12年(1815)10月15日に、江戸神田小川町足利藩邸内にて生まれた。幼い頃から親戚の金井烏洲に絵画の手ほどきを受け、20歳のときに脱藩し谷文晁・渡辺華山らの画風を学んだ。嘉永6年(1853)には、足利藩の絵師に登用された。

一方で、草雲は志士たちと交友を深め、尊王の志を強くし、幕末・維新の動乱期には誠心隊という民兵組織を結成し治安維持にあたり、足利を戦火から守った。明治維新後も木村半兵衛や旧足利藩士・相場古雲らとともに足利の近代化に尽くした。

明治11年(1878)には、蓮岱寺山(現 足利公園内)の白石山房に移居し、山水・花鳥・人物など様々な作品を描いた。草雲の描く作品は、パリ万博やシカゴ世界大博覧会等で名誉牌を受けるなど国内外で高い評価を受け、明治23年(1890)には、芸術家にとって最も名誉ある帝室技芸員に橋本雅邦らとともに選ばれた。草雲の画業は単なる絵師としてのものではなく「文人」としてのそれであった。

明治31年(1898)、84歳で静かにその生涯を閉じた。草雲没後は弟子や足利藩士を中心に草雲を顕彰するとともに草雲が残した白石山房や絵画を守った。昭和43年には白石山房の傍らに鈴木栄太郎氏により草雲美術館が建設され、足利市に寄付された。田崎草雲の代表作は美術館等で良好に保存され、今日でもその高い芸術性を観賞することができる。

##### ○文人文化

室町時代足利の庄を支配した長尾景人は狩野派の祖である狩野正信と縁戚関係にあったとされ、景人も絵を良くした。当時の武将は教養として和歌や連歌を詠み、絵画も集めた。長尾氏が仕えた上杉氏の周辺も文化サロンを呈していた。

中国の士大夫(知識人階級)にはじまる文人文化は、江戸時代の日本で多彩に開花した。月谷町にある巖華園は源姓足利氏を祖とする旧家で、江戸後期には椿椿山や高隆古といった文人墨客が遊び、サロンとなっていた。当主も椿椿山に絵を学んだ。国登録文化財となっている巖華園庭園は当時谷文晁が作庭し、その弟子の渡辺華山によって命名されたとされている。当時は中国の絵画を模写することが修練であり、巖華園庭園も文人が学んだ中国絵画に描かれた山水を習っているところに特徴がある。

また、足利学校には貴重な古典籍や絵画などが所蔵されていたことから、各地から文人が来訪した。江戸後期からは丹南藩代官岡田東塙、奥河内清香といった文人が活躍し、法楽寺等の寺院も文人らの交流の場となった。文人が集う場は寺院や豪商の屋敷等が中心であり、そこには庭園がつけられた。庭園はその後も足利織物産業の興隆に伴い昭和時代まで作られ市内各所に残されている。そうした庭園の中には、池庭と茶室周辺の露地により構成される邸宅庭園の意匠や足利の茶の湯文化を現在に伝え、造園史上の意義が深いと考えられるものも多く遺されている。

以上のように、草雲の影響を受け近代化を促進した文化人や、豪商などの経済的富みを文化芸術に捧げた、明治・大正・昭和の文化を創造した多くの先人の文化財群が遺されている。

## ②構成する文化財

「基本構想」において明示されている関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」を構成する文化財及びその分布状況は以下のとおり。

表：関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」を構成する文化財一覧(1/4)

分類	文化財名称	指定・登録等の状況	公開状況	所有者 管理者
田崎草雲のアトリエ等	白石山房(草雲美術館・田崎草雲旧宅跡)	市指定史跡	公開	足利市
	田崎草雲墓所	市指定史跡	公開	長林寺
田崎草雲の作品	絹本着色 蓬萊仙宮図	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本墨画 富嶽図	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 秋山晚暉図	県指定絵画	非公開	個人
	紙本墨画 雪景図	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 朝陽鳴鳳図	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本墨画淡彩 三白図	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本墨画 竜図	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 男舞図	県指定絵画	半公開	足利市
	紺紙金泥 両界曼荼羅図	県指定絵画	非公開	鶏足寺
	紙本淡彩 山村団欒図	県指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 松溪載鶴図	県指定絵画	非公開	個人
	紙本淡彩 柳堤聴鶯図	県指定絵画	非公開	個人
	紙本淡彩 草雲自画像	県指定絵画	半公開	個人
	紙本淡彩 過眼備忘・雲烟過眼・囊中泉石図	県指定絵画	半公開	個人
	紙本墨画 天変地異図	県指定絵画	半公開	個人
	紙本墨画 固定忠治像	県指定絵画	半公開	個人
	綿布墨画 雷神図	県指定絵画	半公開	個人
	絹本着色 朔風飄雪図	県指定絵画	非公開	足利市
	紙本着色 牡丹図屏風	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 汁講図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 白波紅暎図	市指定絵画	半公開	足利市
	紙本金地著色 八ッ橋図六曲屏風	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 瑞雲鳴鳳図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 花鳥図	市指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 寛に小禽図	市指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 十指春風図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本淡彩 春山暎霽図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 青松白帆図・山市雪霽図	市指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 濠梁逸趣図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 武具曝虫図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 白衣観音図	市指定絵画	半公開	三宝院
	紙本着色 蕉蔭睡禽図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本淡彩 月下漁眠図	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 蓬萊山図	市指定絵画	半公開	足利市
	紙本墨画 松林仙館図	市指定絵画	非公開	個人
	紙本着色 富士見西郷図	市指定絵画	非公開	地福院
	明治宮殿杉戸下絵(附作成資料)	市指定絵画	非公開	地福院
	綿布墨画 龍図陣羽織	市指定絵画	非公開	地福院
	絹本墨画 都久波山図	市指定絵画	半公開	三宝院
	紙本墨書 文武忠孝の書(田崎草雲筆)	市指定考古資料	半公開	個人
紙本墨書 野晒画賛(〃)	市指定考古資料	半公開	足利市	
紙本墨書 述懐の歌(〃)	市指定考古資料	半公開	足利市	
芸術作品(田崎草雲以外のもの)	絹本墨画 淡彩観瀑図(伝狩野正信筆)	国指定絵画	半公開	長林寺
	紙本着色 長尾政長像(認定重要美術品)	国指定絵画	半公開	心通院
	紙本着色 長尾景長・憲長・政長像	国指定絵画	半公開	長林寺
	紙本着色 山水図(長尾景長筆)	国指定絵画	非公開	個人
	紙本着色 富士巻狩図(高隆古筆)六曲屏風	県指定絵画	非公開	個人
	紙本墨画 淡彩秋山瀑布図(高久靄厓筆)	県指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 五大明王像	県指定絵画	非公開	個人
	紙本淡彩 翎毛虫魚画帖(渡辺華山筆)	県指定絵画	半公開	足利市
	絹本着色 高砂図(小堀鞆音筆)	県指定絵画	非公開	個人
	絹本墨画 雲龍図	県指定絵画	半公開	鏝阿寺

表：関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」を構成する文化財一覧(2/4)

分類	文化財名称	指定・登録等の状況	公開状況	所有者管理者
芸術作品(田崎草雲以外のもの)(続き)	絹本着色 釈迦八大菩薩像	県指定絵画	半公開	鏝阿寺
	絹本着色 涅槃図	県指定絵画	半公開	鏝阿寺
	絹本墨画 淡彩不動明王二童子像	県指定絵画	半公開	鏝阿寺
	絹本着色 真言八祖像	県指定絵画	半公開	鏝阿寺
	絹本着色 弘法大師四所明神像	県指定絵画	半公開	鏝阿寺
	絹本着色 大橋淡雅夫人民子像	県指定絵画	半公開	龍泉寺
	絹本着色 釈迦三尊・十六善神図	県指定絵画	半公開	長林寺
	紙本着色 鏝阿上人自画像	市指定絵画	非公開	鏝阿寺
	絹本着色 柳堤聞鶯之図	市指定絵画	半公開	長林寺
	紙本着色 達磨像	市指定絵画	半公開	長林寺
	絹本着色 秋草群虫図(椿椿山筆)	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 花鳥図(岡本秋暉筆)	市指定絵画	非公開	個人
	絹本着色 二十四孝図(高隆古筆)六曲屏風	市指定絵画	非公開	個人
	紙本着色 釈迦十六羅漢図	市指定絵画	半公開	三宝院
	竜雲寺本堂天井板絵	市指定絵画	半公開	竜雲寺
	聖画像	市指定絵画	半公開	足利ハリストス正教会
	紙本着色 十六羅漢図	市指定絵画	非公開	長松寺
	紙本着色 両界曼荼羅図	市指定絵画	非公開	鏝阿寺
	日光鹿島神社天井板絵	市指定絵画	半公開	日光鹿島神社
	絹本着色 涅槃図	市指定絵画	非公開	竜雲寺
	紙本着色 足利義氏像	市指定絵画	非公開	鏝阿寺
	板絵著色 三十六歌仙図	市指定絵画	半公開	稻荷神社
	紙本墨画 お国替絵巻	市指定絵画	非公開	個人
	紙本着色 四季山水図襖絵(奥原晴湖・渡辺晴嵐筆)	市指定絵画	半公開	永宝寺
	八幡宮拝殿天井板絵及び大絵馬	市指定絵画	半公開	八幡宮
	三柱神社拝殿天井板絵	市指定絵画	半公開	三柱神社
	善徳寺本堂天井板絵	市指定絵画	非公開	善徳寺
	長谷川沼田居作品	-	-	-
	牧島如鳩作品	-	-	-
	川島理一郎作品	-	-	-
	木造 孔子坐像	県指定彫刻	公開	足利市
	大岩毘沙門天本堂の絵馬及び奉納額	県指定民俗文化財	半公開	最勝寺
三崎稻荷神社の絵馬	県指定民俗文化財	半公開	三崎稻荷神社	
奥河内清香資料	-	非公開	足利市	
相田みつを作品	-	-	-	
文人サロン	足利学校跡(聖堂および付属建物を含む)	国指定史跡	公開	足利市
	浄林寺離れ	市指定建造物	公開	浄林寺
	高福寺	-	公開	高福寺
	法楽寺	-	公開	法楽寺
	法玄寺	-	公開	法玄寺
浄土庭園跡	樺崎寺(法界寺)庭園跡	国指定史跡	公開	樺崎八幡宮等
	吉祥寺庭園跡	-	半公開	吉祥寺
	法楽寺庭園跡	-	非公開	法楽寺
	智光寺庭園跡	-	公開	
戦国時代の庭園	長氏居館跡	-	非公開	
近世の寺院庭園	徳正寺庭園	-	公開	徳正寺
	法楽寺庭園	-	非公開	法楽寺
	隆興禅寺庭園	-	公開	興隆禅寺
住宅庭園	物外軒庭園	国登録名勝	半公開	足利市
	巖華園庭園	国登録名勝	半公開	個人
	田沼家庭園	-	非公開	個人
	古梅山荘庭園	-	非公開	個人
	ぼるか庭園	-	公開	個人
	大吉庭園	-	非公開	個人
	みやこ旅館庭園	-	非公開	個人
	相洲楼庭園	-	半公開	個人
	荻野家庭園	-	非公開	個人
	木村家庭園	-	公開	個人
杉木家庭園	-	非公開	個人	

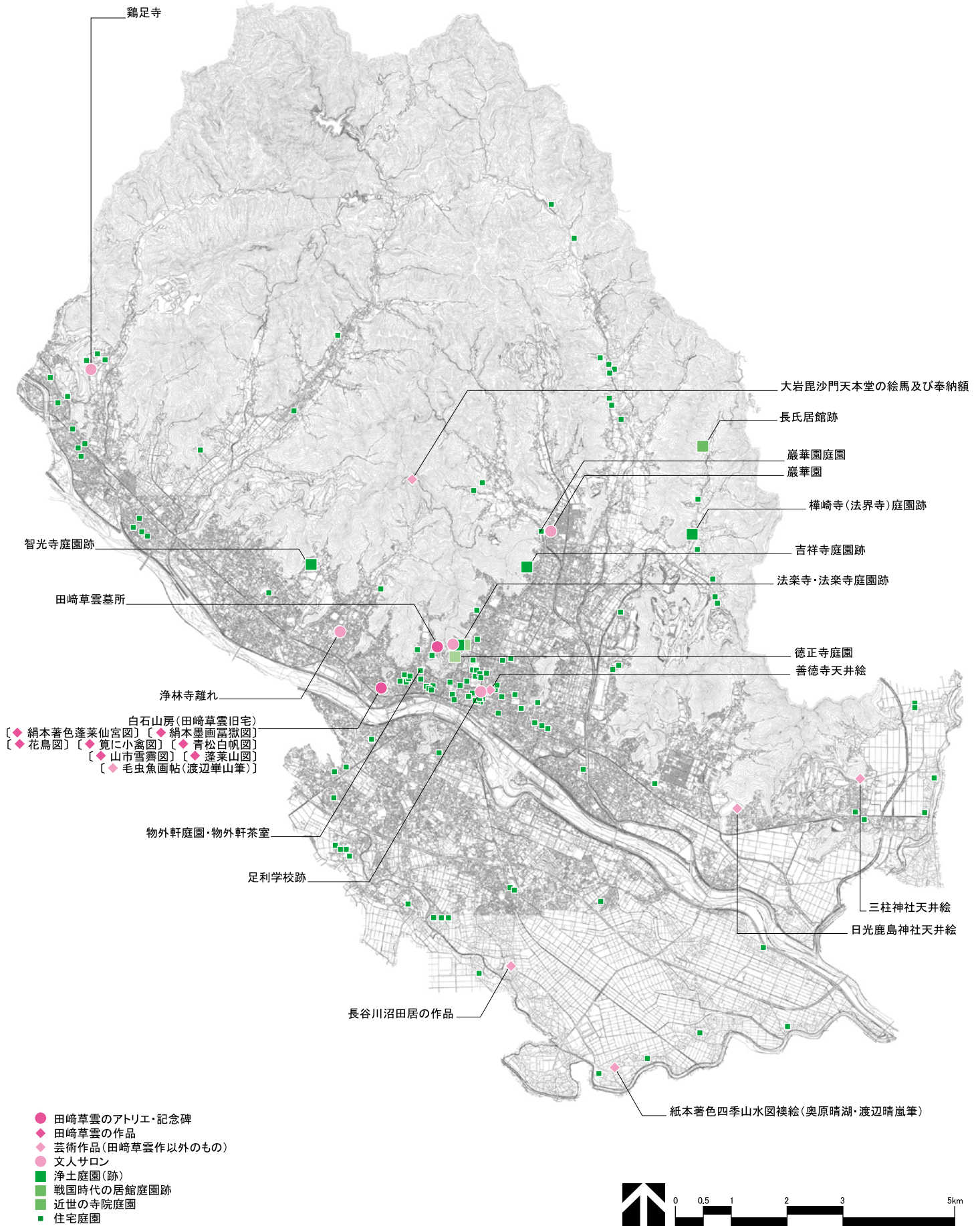
表: 関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」を構成する文化財一覧(3/4)

分類	文化財名称	指定・登録等の状況	公開状況	所有者 管理者
住宅庭園(続き)	岩下家庭園	-	非公開	個人
	柳田家庭園	-	非公開	個人
	三村家庭園	-	非公開	個人
	飯塚家庭園	-	非公開	個人
	杉江家庭園	-	非公開	個人
	塩田家庭園	-	非公開	個人
	真尾家庭園	-	非公開	個人
	柿沼家庭園	-	非公開	個人
	三田家庭園	-	非公開	個人
	吉田家庭園	-	非公開	個人
	松村記念館庭園	-	公開	個人
	山藤家庭園	-	非公開	個人
	清水家庭園	-	非公開	個人
	小俣幼児生活団庭園	-	非公開	個人
	増田家庭園	-	非公開	個人
	世取山家庭園	-	非公開	個人
	近藤歯科医院庭園	-	非公開	個人
	黒川家庭園	-	非公開	個人
	片桐商店庭園	-	非公開	個人
	大島家庭園	-	非公開	個人
	谷医院庭園	-	非公開	個人
	初石旅館庭園	-	非公開	個人
	柳田家庭園	-	非公開	個人
	山室家庭園	-	非公開	個人
	板橋家庭園	-	非公開	個人
	田中家庭園	-	非公開	個人
	寺家庭園	-	非公開	個人
	小林家庭園	-	非公開	個人
	福田家庭園	-	非公開	個人
	新里家庭園	-	非公開	個人
	山口家庭園	-	非公開	個人
	今井病院庭園	-	非公開	個人
	中医院庭園	-	非公開	個人
	青柳医院庭園	-	非公開	個人
	松崎家庭園	-	非公開	個人
	初谷(幸夫)家庭園	-	非公開	個人
	真尾(良治)家庭園	-	非公開	個人
	柴崎家庭園	-	非公開	個人
	須永家庭園	-	非公開	個人
	公文教室庭園	-	非公開	個人
	金井家庭園	-	非公開	個人
	植木家庭園	-	非公開	個人
	橋本(藤沼)家庭園	-	非公開	個人
中森家庭園	-	非公開	個人	
勝倉家庭園	-	非公開	個人	
初谷(秀紀)家庭園	-	非公開	個人	
大川家庭園	-	非公開	個人	
モトミクロス工業庭園	-	非公開	個人	
富永公園	-	非公開	個人	
増岡家庭園	-	非公開	個人	
松樹荘庭園	-	非公開	個人	
大橋家庭園	-	非公開	個人	
橋本(守正)家庭園	-	非公開	個人	
橋本(幾美)家庭園	-	非公開	個人	
朝山歯科庭園	-	非公開	個人	
津久美織物庭園	-	非公開	個人	
吉田家庭園	-	非公開	個人	
ル・クール庭園	-	公開	個人	
国定家庭園	-	非公開	個人	

表：関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」を構成する文化財一覧(4/4)

分類	文化財名称	指定・登録等の状況	公開状況	所有者 管理者
住宅庭園(続き)	林家庭園	-	非公開	個人
	村田家庭園		非公開	個人
	源光寺庭園(廃寺)		非公開	個人
	松崎家庭園		非公開	個人
	橋本家庭園	-	非公開	個人
	昭和カフェ庭園	-	公開	個人
	斎藤(いつ子)家庭園	-	非公開	個人
	斎藤(昭一)家庭園	-	非公開	個人
	長家庭園	-	非公開	個人
	須藤家庭園	-	非公開	個人
	長島家庭園	-	非公開	個人
	上武(カツ子)家庭園	-	非公開	個人
	飯田家庭園	-	非公開	個人
	前橋家庭園	-	非公開	個人
	川島家庭園	-	非公開	個人
	武井家庭園	-	非公開	個人
	中村酒造庭園	-	非公開	個人
	山本家庭園	-	非公開	個人
	樋口家庭園	-	非公開	個人
	川島家庭園	-	非公開	個人
	石川(良平)家庭園	-	非公開	個人
	秋草家庭園	-	非公開	個人
	人見家庭園	-	非公開	個人
	秋田家庭園	-	非公開	個人
	石川家庭園	-	非公開	個人
	長島家庭園	-	非公開	個人
	伏島家庭園	-	非公開	個人
	坂上(忠七)家庭園	-	非公開	個人
	早川家庭園	-	非公開	個人
	田島家庭園(洒南社)	-	非公開	個人
倉林家庭園	-	非公開	個人	
大関家庭園	-	非公開	個人	
新藤家庭園	-	非公開	個人	

\* 住宅庭園については昭和 40 年代頃までに造られ、大きく改変されていないものを掲載しています。



図：「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」の文化財分布図

### ③関連する人物

「基本構想」において明示されている関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」に関連する人物は以下のとおり。

表：関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」に関連する人物一覧

人 物	概 要
田崎草雲（たざきそうん） 文化 12(1815)～明治 31年(1898)	江戸後期から明治時代にかけて活躍した画家。足利藩士で幕末の騒乱から町を守るため誠心隊を組織した。初代帝室技芸員となる。
長尾景人（ながおかげひと） 生年不詳～文明 4 年(1472)	室町時代後期、足利荘の代官として足利を支配する。狩野派の祖・狩野正信と姻戚関係にあるとの説があり、本人も絵を良くする。菩提寺である長林寺に自画像が残る。
宗長（そうちょう） 文安 5 年(1448)～天文元年(1532)	室町時代後期の連歌師。宗祇に師事した。関東の旅では足利にも来遊、鏝阿寺千手院に逗留して連歌会を催し、足利学校にも立ち寄った。（紀行文『東路の津登』）
岡田東塙（おかだとう） 寛政 3 年(1791)～天保 4 年(1835)	五十部村の代官の家に生まれ、漢詩人として活躍した。足利を訪れる文人は東塙のもとへ立ち寄った。渡辺崋山もその一人。
渡辺崋山（わたなべかざん） 寛政 5 年(1793)～天保 12 年(1841)	三河田原藩の家老で江戸時代後期の画家。天保 2 年妹の嫁ぎ先である桐生へ遊び、足利へも来遊した。足利学校では孔子像の胎内銘を調査する。紀行文『毛武遊記』を著わす。
奥河内清香（おくごうちきよか） 文化 2 年(1805)～明治 6 年(1873)	橘守部に師事し、和歌や学問を身につけ足利で塾を開いた。八雲神社（大門通）境内に歌碑があり、作品は足利学校に所蔵されている。
飯塚瀬北（いづかせぼく） 文化 11 年(1814)～明治 19 年(1886)	八日町（現在の緑町）で臨渡堂（私塾）を開き、30 年余りにわたり弟子たちに儒学を教える。足利公園に顕彰碑がある。
長四郎三（ちょうしろう） 文政 5 年(1822)～明治 29 年(1896)	猿田河岸の回漕問屋萬屋の当主。江戸でも有名な茶人であり、大名や文人を茶会に招いた。猿田の屋敷に茶室・物外軒を建てる。
相場古雲（あいばこうん） 天保 5 年(1834)～明治 44 年(1911)	足利藩藩士。草雲の弟子として絵を学ぶ。古雲は画号。草雲に賛同し誠心隊に入る。明治時代には足利学校保存に力を尽くす。
川上広樹（かわかみひろき） 天保 9 年(1838)～明治 28 年(1895)	足利藩の家老として藩政の改革を行う。明治維新後は足利学校の保護、研究を行い『足利学校事蹟考』を著わす。小俣小学校初代校長としても力を尽くす。
木村凍雲（きむらとうん）	木村半兵衛の子・敬三。草雲が 70 歳の時に養子となる。文人的素養を備え、箏曲、三絃、漆工、彫刻、製陶等もこなし、美人画を得意としていた。
古川竹雲（ふるかわちくうん）	田崎草雲の幼年からの弟子で草雲とは親密であった。晩年まで通り 2 丁目に住み、日本画を教えていた。
小室翠雲（こむろすいうん） 明治 7 年(1874)～昭和 20 年(1945)	館林生まれの日本画家。田崎草雲の弟子。明治半ば以降批判された南画の復権に努めた。文展審査員、帝展審査員などを勤めた。『田崎草雲先生の生涯』を著わす。
川島理一郎（かわしまりいちろう） 明治 19 年(1886)～昭和 46 年(1971)	通り 5 丁目に生まれる。アメリカやパリで絵を学び日本人で初めてサロン・ドートンヌに入選する。大正 8 年帰国し、多くの画家を育てる。
牧島如鳩（まきしまにょきゅう） 明治 25 年(1892)～昭和 50 年(1975)	上渋垂村に草雲の弟子・牧島閑雲の子として生まれる。ハリストス正教を信奉し、山下りんからはアイコンを学ぶ。神道・仏教・キリスト教が融合した独自の画風を確立する。
岡崎清一郎（おかざきせいいちろう） 明治 33 年(1900)～昭和 61 年(1986)	23 歳で詩人になる決意をし、その後北原白秋に認められ活躍する。昭和 10 年に足利に帰り、絵を描き続け、昭和 35 年に高村光太郎賞を受賞する。
長谷川沼田居（はせがわしょうでんきよ） 明治 38 年(1905)～昭和 58 年(1983)	筑波村に生まれる。漢学者・南画家の牧島閑雲、牧島如鳩に師事する、晩年は全盲となるも絵を描き続けた。
相田みつを（あいだみつを） 大正 13 年(1924)～平成 3 年(1991)	高福寺の武井哲応、書家の岩沢溪石に師事する。書家・詩人として自分の言葉、書体で表現し続けた。『にんげんなもの』『一生感動一生青春』

#### ④関連するものがたり

##### ●草雲のアトリエ「白石山房」

白石山房は足利市街地の西部、足利公園内の南にあります。明治6年、蓮岱寺という寺の跡を買い取り、明治11年2階建ての茅葺建物が完成し、移居しました。草雲64歳の時です。その後、杉戸絵の制作のため、東に画室を建てました。「白石山房」の由来は草雲の母親が草雲を身ごもった時、白い碁石を飲む夢を見たことにちなみます。

草雲は明治31年に84歳で亡くなるまでここで絵を描き続けました。草雲の死後は、支援者である荻野萬太郎、川島久三郎、木村浅七、相場左衛門、市川安左衛門、須永平太郎といった町の有力者や相場古雲、阿部茶村、小室翠雲ら弟子たちによって「蓮岱会」が組織され、白石山房とともに残された遺品や作品を保護し、草雲の偉業を顕彰しました。

昭和43年には敷地内に田崎草雲の遺作・遺品を収集・保存し一般に公開するため、足利市在住の故鈴木栄太郎氏が草雲美術館を建設し、足利市に寄付しました。昭和44年には「田崎草雲旧宅（庭園を含む）」市の史跡に指定され保護されています。

##### ●草雲の「富嶽図」

草雲は朝晩に白石山房から富士山を眺め、時には望遠鏡なども持ち出して、克明に観察したと伝えられ、草雲はたくさんの富士山を描いています。

草雲美術館所蔵の富嶽図は、直径154cmの円窓に水墨を用いて描かれています。見る者を圧倒する構図の雄大さもさることながら、力強く一気に引いた稜線や、墨の濃淡を使い分けて描かれた雲など、草雲の確かな筆力が感じられます。



写真：田崎草雲筆「富嶽図」

本図は、明治26年にアメリカ・シカゴで開催された万国博覧会に出品され、名誉賞牌を受領した「富嶽晴色図」と同じ構図の作品であり、同時期に描かれたものと考えられます。「富嶽晴色図」は現在東京国立博物館に所蔵されています。草雲が80歳頃の作品です。

##### ●長尾氏と狩野正信

文正元年（1466）足利荘の代官となった長尾景人は菩提寺である長林寺に「観爆図」を寄進しています。描いたのは室町幕府の御用絵師で、狩野派の祖とされる狩野正信です。景人と正信には姻戚関係があると言われ、「観爆図」はその強いつながりを示しています。長尾氏は景人から3代にわたって絵を良くし、景人の手による絵画は素人の域を脱しています。こうしたことも狩野派とのつながりが示唆されます。長尾氏の自画像は景人、憲長、政長三代のものが長林寺に、政長のものが心通院に残されています。また、長尾氏が仕えた上杉氏は教養が高く、周辺には絵師や連歌師等が集まり文化サロンを呈していました。

##### ●足利の大絵馬

足利には数多くの絵馬が残されていることで有名です。特に庶民の祈りの形である小絵馬は市内各所の神社やお寺に保存されています。絵馬の中でも御堂や拝殿などに高く掲げられる大きな絵馬は大絵馬と言われ、江戸時代中期ごろから盛んに奉納されるようになります。足利では鑱阿寺や大岩毘沙門堂、三崎稻荷神社などに歴史的にも貴重で絵画としても優秀な大絵馬が残されています。



鏝阿寺では一切経堂で大絵馬を見ることができます。「銘酒玉の井繁昌図」は足利絵師・草雲の弟子とされる新井勝重の手によるものです。商売繁盛を祈願した絵馬です。大岩毘沙門堂にも多種多様な大絵馬が掲げられています。「鬼踏毘沙門天図」は浮世絵師・葛飾北斎の高弟である柳々居辰斎が描いたものです。力強い毘沙門天の動きは絵師の力量を感じさせます。また、「俳額」は境内で催された句会の記念や技術向上を願って奉納されたもので、市内には数多くの「俳額」が残されていますが、大岩毘沙門堂には「一茶俳額」が掲げられています。小林一茶を始めとする一流の俳人の作品を集めたもので、足利における俳句の流行と江戸との交友などを物語る貴重な絵馬です。

大前町の三崎稲荷神社は徳川幕府の御典医となった大前村出身の丸山昌貞によって享保7年（1722）に江戸小川町の三崎稲荷を勧請されたとされています。市指定となっている11面の絵馬のうち3面が狩野派の絵師により描かれたものです。狩野派の絵師は幕府の御用絵師であり、本来は絵馬に絵を描くことはありませんが、御典医の求めに応じて描いたのでしょう。2面の繋ぎ馬の絵は今にも飛び出してくるような勢



写真：三崎稲荷神社「繋ぎ馬図」

いです。また、「七福神図」は「翠園堂晴信」の署名があります。絵師について詳しいことがわかりませんでした。切手の図柄に使われている「竹田晴信」であることがわかりました。

このように、大絵馬は足利の絵師ばかりでなく、中央の有名絵師によっても描かれるなど、当時の芸術文化や文化交流、風俗や社会状況を知る上でも貴重な歴史資料といえます。足利の絵馬については長年の足利絵馬の会の調査研究によって様々なことが明らかにされています。

## ●足利の庭園文化

足利に本格的な庭園が造られたのは鎌倉時代初期のことです。源姓足利氏2代目の義兼は文治5年奥州合戦の戦勝祈願のため足利荘の北東・樺崎の地に樺崎寺を創建しました。樺崎寺には京都や奥州平泉で流行した浄土庭園を造営しました。浄土庭園とは大きな池、池に浮かぶ中島、池に注ぐ遣水などが堂塔とともに配置され、あたかも極楽浄土を再現したかのような優美で華麗な庭園です。樺崎寺の浄土庭園はその後も代々の足利氏により修理されながら守られてきました。現在は足利市教育委員会により発掘調査され、復原整備が進められています。



写真：物外軒庭園

義兼以降足利氏の代々の当主は足利の地に菩提寺を建立し、浄土庭園を造営しています。義氏の法楽寺（本城2丁目）、泰氏の智光寺（山下町）、頼氏の吉祥寺（江川町）です。智光寺跡は清風高校建設に伴う発掘調査で浄土庭園が確認されています。法楽寺、吉祥寺は発掘調査はされていませんが、伝承等により浄土庭園があったと推定されています。

その後、戦国期までは庭園の実態はわかりませんが、鏝阿寺十二坊や足利氏の家臣の居館などには庭園が造られていた可能性があります。戦国期の居館跡と考えられる樺崎町の長氏居館跡では発掘調査により土管で水を流した滝や石組をもつ池等が確認されています。室町時代から戦国時代にかけて足利を

支配した長尾氏の本拠地は平井城（群馬県藤岡市）ですが、絵を良くする教養人でもありましたから、足利の居城や菩提寺の長林寺等にはおそらく庭園があり、連歌師を招いて連歌会等をもよoshしたものと考えられます。

江戸時代になり例幣使道の整備や河岸の設置などにより江戸を始めとする他地域との交流が盛んになり、経済、文化活動が活発になります。商人や織物業を営むものの屋敷には文人墨客や商談相手を招くのに恥ずかしくないしつらえがされ、庭園も造られます。そうした庭園は巖華園庭園や柳田市郎衛門（物外軒庭園）に見られます。

幕末から明治にかけてはそれまでの織物の生産がさらに発展し、織物業を始めとする商工業が盛んとなり、旦那衆たちは邸宅とともに庭造りにお金をかけ始めます。明治時代の庭園のうち中央区域のものは、平庭が多く見られます。主屋や離れに面し、植栽の間に飛び石や灯籠を配しています。荻野家庭園や木村家庭園、勝倉家庭園等がその例です。山下町の新藤家庭園は春日岡丘陵の縁辺の高低差を利用した他に例を見ない広大でダイナミックな庭園です。

大正期から昭和初期、足利織物のピークを迎えると好景気や植木職人の技術向上等を背景に庭造りもピークとなります。クロボク始め、石を積上げた築山が盛んに造られるようになります。クロボクを使った築山は小崎家庭園（ぼるか）やみやこ旅館庭園、山室家庭園、モトミクロス工業庭園などに見られます。チャートや梅田石を使った築山は、競うように石を高く積んでいるものもあり、吉田家庭園や初谷家庭園等に見られます。そして、戦後もトリコット産業による好景気を背景に昭和 40 年代までこれまでの伝統技術を用いた新たな庭造りが続けられたことは注目されます。

また、足利の地理的特徴として山間部と平野部の庭園に相違がみられます。山間部の庭園は排水や貯水を目的とする水路や池を庭園とする例が多くみられます。世取山家庭園や橋本家庭園、寺院としては法楽寺庭園や徳正寺庭園、隆興寺庭園等もその例と言えるでしょう。平野部では池や水路の護岸に河原石を用いた泗南社庭園にその特徴が良く表れています。

### ● 渡辺華山の毛武遊記

渡辺華山は江戸後期の三河・田原藩の家老で、文人画家でもありました。妹の茂登が桐生の織物買い継商・岩本家に嫁いだことから桐生を訪れ、足利へも遊んでいます。その記録が「毛武遊記」にまとめられ、岡田東鳩との交流や足利学校の孔子坐像の胎内銘を読んだこと等が記されています。月谷町の巖華園の当主・中島家は源姓足利氏の子孫で江戸時代には絵を描き、谷文晁、椿椿山、高久隆古、高野長英、佐久間象山ら文人との交流が絶えませんでした。華山も中島家を訪れ、谷文晁とともに庭園を作り「巖華園」と命名しています。

### ● 連歌師・宗長の来遊

連歌とは和歌を基本として複数の作者により連作する詩をいいます。室町時代が最盛期で能楽と並ぶ遊戯の一つとされています。連歌を専門に詠む連歌師により、貴族の邸宅や寺社、大名のもとで連歌会が催されました。戦国時代から近世にかけては身につけるべき教養の一つとされました。

宗長は師の宗祇とともに各地を旅し連歌会を催しました。永正 6 年（1509）には新田から佐野へ向かう道すがら、足利学校、鏝阿寺へ立ち寄り、鏝阿寺千手院（十二坊の学頭）に 3 日間逗留し、さらに東光院、威徳院でも連歌会を催しています。宗長は旅の記録を『東路の津登』に著わし、足利学校について「孔子・子路・顔回の肖像をかけて、諸国の学徒がこうべを傾けている」様子を記しています。

## (2) 価値

関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」のストーリー・構成する文化財を踏まえると、同関連文化財群の価値は以下のとおりに整理できる。

- **足利が生んだ近代の文人画家・田崎草雲の芸術作品、さらにはその弟子達の芸術作品等を、田崎草雲の足跡とともに理解することができる。**
- **足利の芸術文化の基層ともなっている、様々な文人達の交流の歴史を理解することができる。**
- **中世を起源とし、現代においては多くの人々によって受け継がれている、足利の庭園文化を理解することができる。**

## (3) 構成する文化財の現状と課題

関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」の価値を将来に渡り継承し、魅力的かつわかりやすく伝えることを目的として、構成する文化財の保存・活用に係る現状を整理し、課題を整理する。

### ①保存活用の現状

関連文化財群を構成する文化財の保存及び活用に係る現状は以下のとおり。

#### <保存に係る現状>

- 現時点では未確認の状態であると考えられる、田崎草雲及び草雲の弟子達の絵画等に関する調査が進められているが、草雲の弟子たちの作品については指定等の保護措置が図られていない。
- 草雲作品の優品の多くは県指定、市指定文化財であり、草雲美術館等に所蔵されているが、日本絵画史上優秀な作品との評価がされている作品が国重要文化財に指定されていない。
- 足利絵馬の会による調査研究により、大絵馬の中に辰斎や竹田晴信等の絵師による作品が発見され、市指定文化財となり保護されている。
- 美術工芸品調査、市内名勝・庭園調査等により、新たな文化財が発見されているが、未指定であり保護措置はとられていない。
- 田崎草雲の個人所有の作品については画聖草雲会と足利市立美術館との共催による「草雲絵画鑑定会」によって新たな作品が発見されている。
- 「田崎草雲のアトリエ等」、「文人サロン」の文化財の多くは、県指定文化財、市指定文化財、国登録文化財となっており、文化財保護法に基づく保護措置が図られているものの、それ以外の文化財（特に調査により新たに発見された文化財）については文化財保護法に基づく保護措置が図られていない。
- 田崎草雲以外の画家の作品は、足利市立美術館、足利商工会議所、長谷川沼田居美術館等でも所蔵されているが、指定等の保護措置はとられていない。
- 足利市や足利市文化財団では草雲を始めとするゆかりの作家の作品の購入、寄付受け入れにより作品の散逸を防いでいる。
- 田崎草雲作品を始めとする絵画作品は指定・未指定を問わず、公有化されていない作品の保存は所有者に任されており、その保存状態等をチェックする機会がない。

- 浄土庭園、戦国時代の庭園については、樺崎寺跡が継続的に発掘調査され国史跡に指定されているが、昭和39・40年、平成2年に発掘調査された智光寺跡は阿弥陀堂の一部が公有化され、整備されているのみで、浄土庭園部分は現在清風高校の敷地となっており、保護はされていない。長氏居館跡は発掘調査により庭園跡が確認されているが、指定等の保護措置はとられていない。そのほかについては発掘調査、保存措置がとられていない。
- 近世の寺院庭園では指定等の保護措置が取られていないが、徳正寺庭園では所有者の意向と足利庭園文化研究会の協力により維持管理方法が見直され、当初の景観に近づけることができた。
- 史跡足利学校は復元整備により江戸中期の庭園の姿がよみがえったが、現状の維持管理方法では当初の姿が保たれていない。
- 住宅庭園等、個人が所有する多くの文化財については、その管理に手がかけられないこと、当初の庭園が意図していた景観が維持されていない等の状況が見受けられる。
- 足利庭園文化研究会の活動により、技術者への研修会や所有者への保存修復についてのアドバイス等の活動が進められている。
- 奥河内清香資料については足利市文化財愛護協会の奥河内清香研究会により、足利学校所蔵資料の調査・翻刻がされている。
- 市内に残る文学碑等についての調査研究が進んでいない。また、保護措置もとられていない。
- 大絵馬は保存環境が良くない場合も多く、劣化しているものが見られる。



白波紅暎園  
田崎草雲筆(県指定)



写真：足利庭園文化研究会による  
保存技術研修会

### <活用に係る現状>

- 「白石山房」は、足利市の管理運営により敷地一帯が草雲美術館として一般に公開されており、同美術館内において「田崎草雲の芸術作品」を鑑賞することができる。
- 公有化されていない絵画等の公開が進んでいない。
- 友愛会館（足利商工会議所）、長谷川沼田居美術館等で、芸術作品が公開されている。
- 国指定史跡となっている「樺崎寺跡（法界寺跡）」は、現在、足利市により私有地の公有化を進め、浄土庭園の復元整備が進められている（現時点でも一般に公開がされている）。
- 史跡足利学校跡は復元整備され公開され、各種講座やイベントなど積極的に活用が図られている。
- 住宅庭園については、そのほとんどが個人所有の文化財であることから、基本的に一般への公開が行われていないが、所有者が飲食店を営み庭園が公開・活用されている例も見られる。



写真：樺崎寺（法界寺）庭園跡  
（出典：足利市ホームページ）

- 画聖草雲会による展示説明や草雲美術館での演奏会や、庭園文化研究会による古庭園の写真展の開催、古庭園めぐりツアー等、足利絵馬の会による絵馬展での展示解説等、文化財を活用した各種イベント等の取り組みが積極的に展開されている。



写真:草雲美術館における演奏会



写真:古庭園めぐりツアー

## ②保存活用の課題

以上のような保存及び活用の現状を踏まえると、関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」の保存及び活用の課題は以下のとおりに整理できる。

### <保存について>

- 田崎草雲を始めとする芸術作品について未だ確認されていない文化財発見のための調査研究の継続
- 田崎草雲の作品の価値をより高めるため草雲美術館を中心とした調査研究の推進
- 文化財保護法に基づく保護措置がなされていない文化財への保護措置及びそのための調査の推進
- 庭園、絵画、絵馬等文化財の種別ごとの維持管理方法の検討と共有化
- 文化財庭園という新たな種別である文化財について市民・所有者への普及啓発
- 文化財庭園の調査研究の継続

### <活用について>

- 草雲作品の所有者に積極的に働きかけ、草雲美術館での公開の機会を増やす。
- 草雲作品の魅力を全国に発信する。
  - ・草雲生誕 200 年(平成 27 年)に向けて全国的に草雲絵画の展示及び紹介をしていくための準備。
- 草雲作品以外の文化財についても、一斉公開等のイベント等を利用し公開の機会を増やす。
- すでに活動し、成果を上げている画聖草雲会、足利絵馬の会、足利庭園文化研究会等関係団体の育成と支援を推進する。
- 画聖草雲会、足利絵馬の会、足利庭園文化研究会等関係団体とこれまで以上に連携しながら文化財公開・活用を推進する。
- ソフト面の取り組み等と連携した学校教育・生涯学習や文化財の公開の推進
- 絵画作品を所蔵する草雲美術館、足利市立美術館、足利商工会議所、関連文化財である史跡足利学校跡、巖華園、浄林寺等価値を理解する上で関連性の強い施設のネットワークを形成し、共通パンフレットやマップ作成、相互に連携した展示会やイベントの開催により活用を推進する。
- 関連文化財の中でも史跡足利学校跡は特に多くの参観者が訪れ、拠点的な施設となっているため、関連文化財群の発信基地としてさらに活用を図る。

## (4) 保存活用の取り組みの方向性

前項の現状及び課題を踏まえ、関連文化財群「田崎草雲を生み出した足利の芸術文化のものがたり」の保存活用に関する取り組みの方向性を以下のとおりに整理する。

### 【関連文化財群の価値の保存のために】

#### ①調査研究の推進

未だ確認されていない文化財の発見と、関連文化財群としての価値をより充実させることを目的とした調査研究を推進する。

##### <取り組みの方向性>

##### ● 新たな文化財発見のための調査研究

現在進められている、田崎草雲及び弟子達の作品等に関する調査研究、住宅庭園に関する調査研究等を継続して推進し、文化財としての価値を高める。また、未だ確認がされていない新たな文化財の発見に努め、関連文化財群を構成する文化財の充実を図る。

##### ● 関連文化財群としての価値の確立・充実のための調査研究

住宅庭園等、現在、足利の庭園文化としての位置付けを解明しつつ、あるテーマにおける調査研究を推進し、関連文化財群としての価値の確立と充実を図る。

(今後新たな文化財が発見された際に、その文化財が関連文化財群として相応しいか否かを判断するための概ねの目安を定める。)

#### ②保護措置の推進

関連文化財群を構成する文化財として位置づけられた文化財のうち、文化財保護法に基づく保護措置が図られていない文化財への保護措置を推進する。

##### <取り組みの方向性>

##### ● 指定・登録による保護措置の推進

田崎草雲作品の中でも特に優れた作品については、調査研究成果に基づいて国重要文化財指定を目指す。田崎草雲及び弟子たちの作品、その他の芸術作品についても、特に優れたものについては所有者の理解を得ながら指定による保護措置を推進する。

美術工芸品調査により確認された関連文化財のうち、特に優れたものについては所有者の理解を得ながら指定による保護措置を推進する。

住宅庭園の中でも特に優れた庭園については、所有者の理解を得ながら、国登録を目指す。

##### ● 「足利市認定文化財(仮称)」への認定の推進

指定対象とならない、指定について所有者の理解が得られない関連文化財については所有者・管理者等との理解を得ながら、「足利市認定文化財(仮称)」への認定を推進する。

#### ③維持管理方法等の普及・周知

これまで、主に個人が所有・管理する文化財の中には、所有者・管理者の知識や技術等の不足のため、やむを得ず失われてしまったり、本来の状態とは大きく変容してしまったものが見られる。そのことを踏まえ、個人が所有・管理する文化財の確実な保存を図るため、所有者・管理者に対して、必要最小限の維持管理方法等の普及・周知を図る。

## <取組みの方向性>

### ● 「保存の手引き(仮称)」の作成

庭園については、適切な維持管理が行われていないために、作庭当初の意匠や景観が保たれていない場合が多い。これは所有者・管理者の知識や意識の不足等によることから、庭園史研究者や文化財庭園保存技術者等の指導により行政が「文化財庭園保存の手引き(仮称)」を作成し、所有者・管理者に配布する。「文化財庭園保存の手引き(仮称)」には所有者・管理者自身が実践することができる内容として維持管理方法、維持管理上の留意点、相談窓口等を取りまとめるものとする。

絵画作品等についても所有者・管理者の意向を聞きながら、「手引き」の作成を検討する。

### ● 技術研修会等の開催

庭園については、適切な維持管理が行われていないために、作庭当初の意匠や景観が保たれていない場合が多い。これは所有者・管理者の意識のみならず、維持管理を行う業者の文化財庭園保存の技術・経験・認識不足等によることから、文化財庭園に対する意識・技術の向上を図るため、研修会等を開催する。研修場所は市所有の物外軒庭園や足利学校庭園のほか個人所有の住宅庭園等にも協力いただく。開催にあたっては、文化財庭園保存技術者協会(庭技協)、足利庭園文化研究会、足利造園組合等関係団体と協働で実施する。

## 【関連文化財群の価値の普及・周知のために】

### ① 学校教育・生涯学習との連携

関連文化財群の価値を踏まえると、関連文化財群には多様なテーマが内在すると言える。学校教育においては地域の発展に尽くした先人たちの業績について文化財関係施設等を活用して学習するものとされており、田崎草雲については絵師としての側面だけでなく、近代化のための人材育成、足利学校・鑾阿寺の保護等のテーマに着目し、教育研究所等と連携して普及啓発をはかる。生涯学習においては、すでに生涯学習センターや各公民館、足利学校、市民プラザにおける文化財講座を実施しているが、田崎草雲や庭園等をテーマとした文化財講座を連携して開催することにより、普及・周知を推進する。

## <取組みの方向性>

### ● テーマに基づいたプログラムの立案

学校教育における社会科研究や教材研究等では教育研究所と協働で研究と実践を図る。

公民館等で行う生涯学習における講座等において今後積極的に導入を図るテーマを立案する。関連文化財群の価値を踏まえると、現段階では以下に示すテーマ(案)が考えられる。特に織姫公民館には地域に草雲美術館が、敷地内には物外軒庭園があり、助戸公民館には木村家庭園がある。史跡足利学校跡は江戸時代の庭園が復元整備されている。こうした身近な文化財を積極的に活用したプログラムを立案する。

- 【テーマ(案)】
- ・ 足利学校と田崎草雲
  - ・ 田崎草雲の遺伝子(弟子達の芸術作品に見る草雲の作風)
  - ・ 足利に集った文人達の足跡
  - ・ 足利の庭園史、〇〇地区の文化財庭園 等

## ②公開イベントの開催

個人が所有・管理する文化財については、基本的に非公開の状態となっているものが多く、今後も常に一般公開することは、管理上の面から困難な面が多い。従って、イベント等の取組みと連携し、期日・時間等を限った公開を推進する。

### <取組みの方向性>

#### ● テーマに基づいた公開イベントの開催

個人所有の草雲作品等については、草雲美術館や足利市立美術館において積極的に公開し、今後も継続して画聖草雲会と協働でイベントを開催する。

川島理一郎や長谷川沼田居作品等は作品を所蔵・展示する友愛会館(足利商工会議所)、長谷川沼田居美術館等と連携して作品の公開を推進する。

また、寺社所有の絵馬、絵画等の文化財はイベント等の取組みと連携し、期日・時間等を限った公開を推進する。特に絵馬の公開については足利絵馬の会と協働で実施する。

庭園についてはすでに足利庭園文化研究会により実施されている「足利の古庭園めぐり」「古庭園写真展」が継続できるよう支援する。



写真:絵馬の会による絵馬の展示解説

## ③ネットワークの形成

関連文化財群を構成する文化財の分布をみると、多くは足利市の中央部に分布しているものの、全体的には市全域に散在していると言える。このように散在している文化財のネットワークの形成にあたっては、来訪者が、同じ関連文化財群、または同種のテーマに基づく文化財であることを認識できるための取組みを推進する。

### <取組みの方向性>

#### ● テーマに応じた共通のサインの設置、解説パンフレット等の作成

住宅庭園等、ひとつのテーマのもとに位置づけられる同種の文化財については、公開の取組みを踏まえながら、共通のサイン板の設置、文化財巡りのための解説パンフレットの作成等を推進する。



写真:「足利氏ゆかりの社寺めぐり」解説サイン板  
鏝阿寺、法楽寺、吉祥寺等、足利氏にゆかりのある寺院に共通に設置されている解説サイン板